女子大学生の就職活動に
結婚・出産の人生設計が及ぼす影響
ーインタビュー調査を通じてー

問題関心と目的

現代女性のライフスタイルは多様化している。昨今では、「既婚女性＝専業主婦」という風潮は薄まり、結婚・出産をしても働き続ける女性が増加

↓

結婚・出産の人生設計が就職活動を通してどのように変わり、女子大学生にどんな影響を及ぼしたかについて分析することを目指した。

調査概要

- 調査方法：インタビュー調査
  アンケート調査
- 調査期間：2009年9月～10月
- 調査対象者：2010年度の就職を目的とした就職活動を経験した奈良女子大学生15人

人生設計のパターン

パターン名	概要
キャリア型	絶対に働き続けたいという希望を持つパターン。
バランス型	子育てと仕事をバランスよくこなしていきたいパターン。
M字型	結婚、出産を機に仕事を辞め、ある程度子どもの手が離れたら仕事に復帰したいパターン。
伝統型	結婚、出産を機に仕事を辞め、専業主婦となり、再就職を希望しないパターン。

回答者の人生設計の変遷

就職活動を始めた頃	就職活動を終える頃	カテゴリー
キャリア型 →	キャリア型	①強キャリア志向（4人）
→	バランス型	②弱キャリア志向（5人）
→	M字型	
バランス型 →	バランス型	③欲張り志向（4人）
伝統型 →	バランス型	④弱伝統志向（1人）
→	伝統型	⑤強伝統志向（1人）

弱キャリア志向の回答例

- 「就職活動を始めた頃はずっと働くものだと思ってたけど、今は辞めてもいいかなって思ってる。結婚や出産はそんなに遠くない未来で、そういうのを考えなきゃいけない年なんだって考えるようになった。就職活動中は付属だったのに、今は逆転してこっちに重きをおいてる。」

弱伝統型の回答例

- 「子どもが生まれるまでは働きたい。今の段階ではそんなに仕事したいとは思わないけど、（子どもが生まれたら）15時までとかで働くおばちゃんを見て、そういう風に働くのとかもありかなって思うようになった。」

結論

- 就職活動を通して自身の理想と社会の現実に気付き、社会のニーズに合わせるように変化していた 。

- 変化した要因

・就職活動での経験

・家族役割の考え方

（母親の職業

母親以外のロールモデルの女性に出会う経験